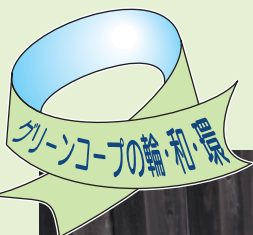




共生の時代

11月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



1960年宮崎県生まれ。NPO法人H・i・m・a・g・i・n・e(ひまじん)代表理事。鹿児島大、長崎大、福岡教育大、大阪経済大、東京農大などで非常勤講師を務める。移動手段は基本的に自転車。3月には高校生の息子と二人でスペインからアフリカまでの1000kmを自転車で走破した。妻・貞子さんはグリーンコープ生協みやさき組合員

プロフィール

エコは素敵なことにつながる

自転車で世界を巡る
エコロジスト

松本 英揮 さん

大学卒業後、宮崎に戻って建設会社を経営していた。公共事業は無駄が多いが、それがないと会社として生き残れないという現実、36歳で人生をリセットすると決めた。妻を残し、次の人生が見つかるはずと

では、野菜や果物は量り売り、街には路面電車が走る。行政は自転車を推進し、市民が自転車を利用しやすいいろいろな面で優遇されている。経済とエコと人々の暮らしやすさが成り立ち、エコは素敵なこと

松本さんが代表理事を務めるNPO法人「H・i・m・a・g・i・n・e」の名前の意味を聞いてみた。「現代人は忙しすぎる。忙しいのは環境破壊の原因になる。みんなで暇人になろう」。

※太陽光の熱エネルギーを集めて調理をする道具

宮崎市の閑静な住宅街にある自宅では、風力発電の風車が元気に回り、玄関先のソーラークーラー(写真右)が太陽の光を浴びて輝いていた。子どもの頃から旅が好きだった松本さんは、東京で建築を学んでいた大学時代には世界各地を旅行するようになった。東南アジアやインドのスラム街に行き、先進国と途上国の生活があまりにも違いすぎると感じた。日本はこのままエネルギーを消費し続けて大丈夫か、いつか繁栄から没落するのではないかという危機感が芽生え、環境問題を意識しはじめた。

う直感だけで、大阪のあいりん地区(日雇い労働者の街、通称ドヤ街)に飛び込み、日雇い労働者として働き出した。そこで見たのは、真冬に次々と死んでいくホームレス者。原発で都合よく使われ、55歳過ぎてクビになった男性。景気が落ち込むとまず仕事にあぶれるのは日雇い労働者だ。理不尽な世の中だと強く感じた。「このままではいけない」そんな思いが松本さんのすむ道を環境問題へと導いた。2年間休みなく働き、家族に仕送りしながら貯金して、ヨーロッパの環境先進国へ旅立った。

松本さんが代表理事を務めるNPO法人「H・i・m・a・g・i・n・e」の名前の意味を聞いてみた。「現代人は忙しすぎる。忙しいのは環境破壊の原因になる。みんなで暇人になろう」。

宮

崎市の閑静な住宅街にある自宅では、風力発電の風車が元気に回り、玄関先のソーラークーラー(写真右)が太陽の光を浴びて輝いていた。子どもの頃から旅が好きだった松本さんは、東京で建築を学んでいた大学時代には世界各地を旅行するようになった。東南アジアやインドのスラム街に行き、先進国と途上国の生活があまりにも違いすぎると感じた。日本はこのままエネルギーを消費し続けて大丈夫か、いつか繁栄から没落するのではないかという危機感が芽生え、環境問題を意識しはじめた。

なんだと感じた。

39歳の時日本に戻り、環境問題について発表する機会を得た。それがきっかけであちこちから講演依頼があり、大学の講師もはじめた。環境先進国のエネルギー政策、ごみ政策、公共交通機関を紹介し、日本での施策を提案している。

これからの目標は、全国各地に森林資源を生かした木質系バイオマス燃料の自然エネルギー発電所を作ること。東日本大震災をきっかけに、このままではいけないと潜在的に思っている人は多い。まず地域住民にその必要性を広めたい。

おめでとう!
びん牛乳
誕生8周年!!

おいしくて安心・安全な
びん牛乳を飲んで、
私たちのびん牛乳を
守っていきましょう



Contents

安心で安全な食卓のために日本の農業を守ろう! 2

うちのメーカー・うちの生産者⑩
(株)グレア クリスマスケーキ 3

「ストップ再処理 2011 脱原発宣言」集会報告
生活を問い直し、「脱原発」を実現しましょう! 4・5

高齢者福祉学習会報告
ぼけても普通に暮らしたいー老人介護の現場からー
「容器包装リサイクル法の見直しとリデュース・リサイクル(2R)の促進に関する署名」が国会で採択されました
「共生地域創造財団」が設立されました 6

お米と野菜を食べよう!-5-
組合員の力作、産直赤とんぼ米の包材デザイン決定! 7

今年の3月に二男が小学校を卒業しました。二人の息子が通った9年間、ずっとPTA活動にかかわり、副会長を5年務めました。人数の少ない学校だから仕方ないと言っているが、とても楽しんでいた。私。おかげでたくさん保護者の方と知りあえ、地域の方々と顔見知りになりました。今でも駅に向かう間に「お出かけ?行ったらっしょい」「元気だった?」などなど声を掛けていた。く。それだけで朝からちょ

送 信

つとハッピーに! やっている時は時間をいかにやり繰りするか頭を悩ませ、忙しい思いもしました。でも自分の世界は広がり、なんでも相談できる仲間を得ることができました。いろいろな方とかわりあってお互いに思いやり、協力しながら活動していくのはどの場面でも必要なことだと思います。さまざまな出会いを大切にしていきたい。

福岡地域理事長
古賀 栄子

安心で安全な食卓のために 日本の農業を守ろう！



訓子府有機の佐々木さんの玉ねぎ畑

思いに応える玉ねぎ作りを

不作により収穫量が減り、収入の減少に辛い日々を送ってきました。この度はグリーンコープの皆さんが、私たちの窮状を考え検討してくださったことをとてもうれしく思います。このように考え行動してくれるところは他にないと思います。近年の北海道は、今までの経験からは予測できない気象状況が度々起こっています。作付けから収穫まで本当に気が抜けない状況が続いています。

農業は自然との闘いです。この闘いに負けずに皆さんの思いにお応えするためにもおいしい玉ねぎを生産できるよう、これからも頑張ります。

訓子府有機
会長 佐々木直樹さん

品質のよいバレイショ作りを

雨や気温の変化があるたびに、品質や収穫量に大きな差が出ます。できる限り農業の使用を減らしていますので、ちょっとした天候不順でも大きな影響を受けることがあります。

2009年からの2年間は、天候不順による病害の発生、不作のために組合員の皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。私たちも大変つらい思いをしましたが、自然の力に勝てないのが現状です。この度、生産奨励金を受け取れるようになって、今後の栽培のいつそうの励みになります。品質の良いバレイショを届けるために努力したいと思います。

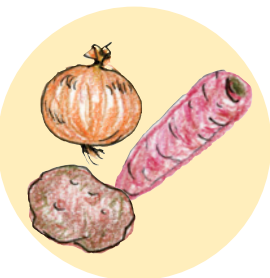
すずらん会
中島晋さん、久世透さん、
滑川弘さん

2009年、2010年と天候不順が続き、北海道ではいろいろな作物が不作でした。グリーンコープにバレイショや玉ねぎなどを出荷している有機農法すずらん会(以下、すずらん会)、訓子府有機農法研究会(以下、訓子府有機)の生産者は、再生産が難しい状況に陥っています。グリーンコープでは、生産者が安定して野菜を作ることができ、組合員が安心して利用できるように、GREEN27号(9月19日週配布)から緊急奨励金を設けて応援しています。

収穫量の減少にともなう収入の減少について
すずらん会はバレイショ、人参、長芋、かぼちゃ、訓子府有機は、玉ねぎ、メロン、レッドオニオンなどを生産。バレイショ、玉ねぎのグリーンコープへの出荷量は、グループ内の生産者によって多少バラツキはあるが、6割から全量におよぶ。特に男爵は全量をグリーンコープに出荷している。温暖化の問題が地球規模で進行していると言われていた中、北海道も例外ではなく、近年、30℃から35℃を超える日が多くなっている。また、北海道には梅雨がないと言われてきたが6～7月には集中的に雨が降ることがある。天候の不順による農作物への影響は大きい。雨によって多量の水を含んだ野菜が、その直後の高温の影響で傷んだり、腐るなど、北海道全体で青

果物の作柄は悪くなっている。また、訓子府有機の地域では、玉ねぎの圃場で病害が発生。無農薬栽培の産直生産者の1人も、被害を受け、収穫量の減少に拍車がかかっている。
生産者が安心して生産できるように、玉ねぎ1kgに16円、バレイショ1kgに5円の緊急奨励金を価格に上乗せします

予約システムを活用して 産直のバレイショ・玉ねぎ・人参を もっともっと利用しよう！



グリーンコープの産直玉ねぎ、産直バレイショ、産直人参は、無・減農薬です。生産者は労を惜まず、丹精込めて作っています。予約注文は、価格も安く、注文忘れをすることもありません。組合員にとっても生産者にとってもメリットのあるシステムです。

「国産なたね油」は300円近く、 「一番搾り国産なたねサラダ油」 は400円近く値下げです！



宮崎県児湯郡新富町のなたね畑

2011年度産農作物から、国の「農業者戸別所得補償制度」が実施され、小麦・大麦・大豆・なたねなどを対象に、収穫量に応じた交付金が支払われることになった。なたねは、1kgに141円が交付される。ともなう、なたねの一般的な取引価格は1kgが100円に定められ、鹿北製油

(グリーンコープの国産なたね油の製造メーカー)の買い取り価格もほぼこの価格が基準となる。こうした状況から、生産奨励金を設定しなくても生産者の手取価格は50kgで1万円を超えることになり、2011年度産は生産奨励金を中止とすることになった。

なたねの国内自給率は0.07%ほどという現状。グリーンコープでは、九州での作付けを農家に働きかけ、2009年度産は92.2haの圃場から、40tのなたねを確保できた。これまで北海道産や青森県産が中心であったなたねを九州圏内で確保することで、輸送費も安くなった。加えて、メーカーの努力もあり、「国産なたね油」と「一番搾り国産なたねサラダ油」の価格を大幅に下げることができた。値下げはカタログGREEN31号(10月17日週配布)から実施している。



これを機に利用も大幅に伸びし、国内の菜の花畑を大きく広げよう！

※1 販売価格が生産費を恒常的に下回っている作物を対象に、国がその差額を交付。農業経営の安定と国内生産力の確保を図り、作付転換を促す制度

※2 グリーンコープのなたねの生産奨励金は、生産者の手取価格が50kgで1万円となるように設計している

 **うちのメーカー**

113



飯塚市
(株) グレア

 **うちの生産者**

—— 手作りのような手間と老舗の技から生まれるおいしいお菓子 ——

クリスマスケーキ★



㊦ガトーショコラ(ホワイトチョコ)
しっとりしたチョコレート生地、たっぷりのチョコクリームと削ったホワイトチョコが重なる濃厚なおしさ

年に一度のスペシャルな楽しみ、クリスマスケーキ。今年のグリーンコープのクリスマスケーキは、4つのメーカーが腕によりをかけて作った商品がそろいました。今号では、クリスマスケーキや通常企画のケーキなどのメーカー、(株)グレアを紹介しします。福岡県の飯塚工場を訪ね、工場長の大野洋介さんと営業の伊藤梓さんにお話を聞きました。

老舗の技と心で作るお菓子

(株)グレアは、菓子製造販売で60年以上歴史のある「さかえ屋」のグループ企業。さかえ屋の製造部門、営業部門を担い1993年に「さかえ屋製菓」として独立、1999年に社名変更して現在の「グレア」となった。

飯塚工場は、さかえ屋グループ最大の工場。5000坪あまりの工場内に約400人が働いている。規模は大きい、効率よりもおいしさを追及する」という精神が貫かれている。昔ながらの職人技を生かすため、機械も職人の技に限りなく近づけるように独自に開発したものが多く。



飯塚工場 工場長 大野洋介さん

食品工場として、衛生面

特に、ほりや髪の毛などを入り込まないようエアロシャワーや作業服の粘着ローラーがけなどには念を入れている。製品管理についても、HACCPを取り入れた手法で各工程を徹底して管理し、さらに常に向上するよう取り組んでいる。

大野さんは、今年4月に工場長に就任したばかりだが、お菓子作りにかけては24年のベテラン。「明るく楽しく、いい商品を」がモットー。従業員と積極的にコミュニケーションをとり、楽しい職場づくりを心がけている。それが、おいしいお菓子を生み出すことにつながるという考えからだ。

組合員のこだわりが生きたグリーンコープのお菓子

グリーンコープブランドでの取引は20年程前、スイートポテトにはじまった。現在はクリスマスケーキの他に通常企画品として、生大福(抹茶クリーム)、生チョコロールケーキ、ミルクレープチョコを製造している。グリーンコープのお菓子に使われる小麦粉は100%国産、添加物は極力使用しないのが特長。国産小麦粉は外国産に比べ膨らみにくい。また、生地を均一に焼き上げるための乳化剤など、添加物が使えないため、製品を安定させるのが難しいという。「以前、生地の膨らみが足りず、一ラインの製品を一晚かけて作り直したこともありました」と大野さん。「膨らみを安定させるため、生地の基準温度をしっかり守って作っています」。また、組合員の元には冷凍の状態が届くので、

冷凍・解凍してもおいしいケーキにするための材料の配合を開発した。

安定剤などを使わないため、材料を一度に全部ミキサーに入れるようなことはできない。家庭や町の小さな菓子屋さんのように、一つずつの作業に手作りに近い手間をかけて作っている。「それがお菓子の基本の作り方であり、お菓子作りの楽しみでもあります」と大野さん。「去年子どもが生まれて、組合員さんと同じ目線で食べものを選ぶようになりました」とも。安心・安全に対する意識は、より高くなったと言う。

お菓子の基本を大事にしたおいしいケーキ

今年、グレアのクリスマスケーキは、例年好評の、「ホワイトクリスマス」、「ミルクレープ」に加え、「ガトーショコラ(ホワイトチョコ)」、「ショコラノエル」がリニューアルして再登場。また、10月だけ

の限定企画で新登場した2種のケーキも、とても好評だった。

「食感、味のアクセントにこだわりました。食べて楽しいケーキができたと思います」と営業の伊藤さん。グリーンコープではチョコレートケーキの人気の高いということで、チョコレートのおいしさを存分に味わえるケーキをメインに揃えた。

「基本に忠実に、手間を惜しまず作ったケーキは、本当においしいです」と伊藤さんは言う。そこには老舗のケーキ作りの技が、確かに生きています。「冷凍のケーキだからと敬遠される方もいらつしやると聞きます。そんな方にこそ、食べてみてほしいと思います」。子どもが大好きなケーキこそ、安心・安全にこだわりたい。今年のクリスマスも、手作りのようなおいしいケーキを選びたい。

※国際的に認められた衛生管理の手法



㊦ショコラノエル(ガナッシュ入り)
チョコチップ入りチョコクリームとガナッシュ(やわらかく口溶けのよいチョコレート)、ふわふわのチョコスポンジ、トッピングの削りチョコの食感が楽しい。㊦産直たまご使用



㊦ホワイトクリスマス
家庭で思い通りにデコレーションできるケーキ。スポンジの間にはイチゴのスライスをサンド。㊦産直たまご使用



㊦ミルクレープ
国産小麦粉のしっとりしたレープが13層になっているおなじみのミルクレープのホールタイプ。㊦産直たまご使用



㊦ブッシュ・ド・ノエル
※ブッシュ・ド・ノエル、ラズベリーショコラは、カタログ30号の限定企画のため予約は終了しました



㊦ラズベリーショコラ

㊦ガトーショコラ(ホワイトチョコ)の製造工程

主な原材料:たまご、チョコレート類、糖類、ホイップクリーム、国産小麦粉



①ベルギーチョコレートを湯煎にかける



②ミキサーで生地を混合する。だまにならないよう手順が大事



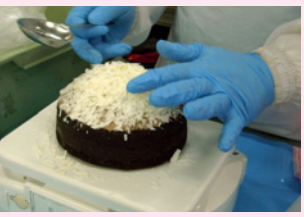
③生地にチョコレートを加え、今度は手で混ぜあわせる



④生地を型に入れ、オープンへ



⑤焼きあがったチョコケーキにチョコクリームを塗る



⑥削ったホワイトチョコをトッピングして仕上げる



⑦でき上がり

実現しましょう!



「脱原発宣言」を提案するグリーンコープ共同代表理事の田中裕子さん

一人ひとりの意志で
原発を止めよう

3月11日の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故。放射能汚染により、約11万人の原発周辺の人々が生活の基盤を奪われ、今もさらに多くの人が日々被曝の恐怖に晒されています。さまざまな食品から放射性物質が検出され、加えて風評被害もあるため復興への歩みもままならない状態です。

集会では、被災地にあるあいこーみやぎ理事長の吉武洋子さんが開会の挨拶をしました。「被災地は、まだ震災の被害から立ち直っていません。地震や津波は人の手では止められないけれど、原発は止められません。一人ひとりが明確な意志を持って原発を止めましょう」と被災地の厳しい現状から脱原発を呼びかけました。

参加者は約650人。原子力資料情報室の澤井正子さんによる講演や、生協組合員、メーカー・生産者などによるリレートークが行われました。各地で脱原発に取り組んでいるようすや原発事故で苦しい状況に置かれているようすが報告されました。

グリーンコープの脱原発政策に基づき、県内に2基の原発があるグリーンコープかごしま生協でも反対運動に取り組んでいます。今回の原発事故を受けて、九州電力が川内原発3号機増設計画の手続きを当面見あ



脱原発を実現するために、たくさんの方の声をグリーンコープかごしま生協理事長 川原ひろみさん

経営する水産加工場が被災しました。復興が思うように進まず苦しんでいる人たちがたくさんいます。震災後は私も気持ちが落ち込むこともあります。地震と津波は天災ですが、その後の放射能問題などへの対応は人災。このままでは食べものが手に入らなくなるかもしれないということもできています。ぜひ、被災地に来て感じてください。粘り強く一緒に原発反対の運動をしていきましょう。



被災地に来て脱原発を実感して

※2
高橋徳治商店(宮城県)
社長 高橋英雄さん

「ストップ再処理2011 脱原発宣言」集会

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク 脱原発宣言 脱原発を実現し、エネルギー政策を転換しよう!

私たち、「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク(阻止ネット)は、2007年7月28日の「キックオフ集会」にて、次の呼びかけ文を採択して活動を始めました。

再処理工場の問題点の前半部分は省略～

放射能汚染は、自然環境とあらゆる生物に深刻な打撃を与えます。その脅威と恐怖は現地の人びとだけの問題ではなく、豊かな農畜水産物の恵みをうけてきた私たち全体の問題です。私たちは、放射能汚染という負の遺産を将来に残さず、これからも安心して国産の農産物、畜産物、海産物を食べ続けたいのです。

すでに沿岸の自治体では、海への放射能放出を規制する法律制定を求める請願を採択するなどの動きが出ており、全国各地で中止を求めるさまざまな取り組みが展開されていますが、私たちもまた、「六ヶ所再処理工場」による放射能汚染を阻止することを目的とし、生産者と連携し、本格稼働の中止を強く求めていきます。この目的を実現させるために、

- 1) 私たちは、放射能汚染による風評被害や実被害を発生させないように行動する決意を表明します。
- 2) 私たちは、自主的に放射能汚染を監視し、自然環境や第一次産業を守り育てることを宣言します。
- 3) 私たちは、生産者と連携し、産地と消費者をつなげ続けていくことを宣言します。
- 4) 私たちは、「六ヶ所再処理工場」による空と海の放射能汚染に反対し、豊かな自然環境と生命と食べ物を守る運動の大きなうねりを、ともに創ることを呼びかけます。

※資料「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク これまでの活動 参照

私たちは、放射能汚染を防ぐためには、原発を含む核燃料サイクル全体の問題を捉えなければならぬと考えていましたが、六ヶ所再処理工場が運転されたなら原発とは桁違いの放射能を環境に放出することを知り、目前に迫る六ヶ所再処理工場の本格稼働を止めさせることを最優先課題として、キックオフから4年間、共に活動してきました。

しかし、3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により深刻な放射能汚染が起こってしまい、これまでの活動のままで放射能汚染を阻止できないことが明白になりました。福島原発周辺の11万という人々の生活基盤が根こそぎ奪われ、さらに多くの人が被曝の恐怖に日々晒されながら暮らしています。野菜、原乳、魚など食品からも放射性物質が検出され、東北をはじめ広範囲の多くの生産者が風評被害と実被害に苦しんでいます。

キックオフ集会で確認した、放射能汚染の「脅威と恐怖は現地の人びとだけの問題ではなく、豊かな農畜水産物の恵みをうけてきた私たち全体の問題」が、まさに現実になってしまったのです。

私たちは痛恨の思いで放射能汚染の現実を見据え、このような悲惨な原発事故を絶対に二度と繰り返さないために、「脱原発」を阻止ネットの活動目的としてはっきりと掲げます。地震・津波による危険性も訴えて「ストップ再処理」を継続し、再生可能エネルギーへの転換を図ること、原発と核燃料サイクルは不要であることを、明確に打ち出します。

あまりにも多くの犠牲が払われましたが、今ようやく、脱原発とエネルギー政策の転換を求める声が大きき社会的うねりとなっています。このうねりをさらに大きく確実なものにし脱原発を実現するために、多くの市民、市民団体、そして生産者と連帯・協力していきます。再処理工場と全ての原発を止めるまで、共に活動していきましょう。

2011年9月19日

「ストップ再処理2011 脱原発宣言」集会

わせると表明し、計画は頓挫しています。かごしまでは増設計画の白紙撤回を申し入れています。現在、川内原発1号機は安全評価のストレステストのため、2号機は定期検査のため、停止中。しかし、県は節電を呼びかけるわけでもなく、県民は普通に生活しています。9月11日に行った「さよなら原発県民集会」では、人口の1割にあたる17万人の署名を集めることを確認し、脱原発の思いを新たにしました。今日も桜島は噴火しています。火山性地震が多発するところに原発があるという危機感を持って運動に取り組んでいきます。

● 今集会の目的である「阻止ネット脱原発宣言」を、グリーンコープ共同代表理事の田中裕子さんが読み上げ、拍手で採択されました。

パルシステム連合会理事長の山本伸司さんは「調査の結果、9割の組合員が脱原発を支持しています。一人ひとりが意志を表明して脱原発を実現しましょう」と挨拶して集会を終えました。

※1 脱原発の思いを同じくする団体とグリーンコープが呼びかけ人となり、放射能が環境に大きな影響を及ぼすとして、六ヶ所再処理工場の本格稼働に反対することを目的に設立

※2 グリーンコープ・生活クラブ生協と取引のある水産練り製品会社。10月1日から工場の一つの製造ラインを再稼働させることができた。ホームレス支援全国ネットワーク・グリーンコープ・生活クラブ生協の3者で形成する「東日本大震災被災者支援共同事業体」の支援事業として、グリーンコープの職員もボランティアで工場の清掃作業などを行っている

「脱原発」の思いをみんなで大きなカタチにしましょう!

今この瞬間も、多くの人が放射能汚染の恐怖に悩み苦しんでいます。二度とこのようなことが繰り返されないよう、「脱原発」の思いを結集し、もっともっと広げていきましょう。グリーンコープもこの集会の呼びかけ人となっています。

サヨナラからはじまるミライ～GOOD BYE NUKES～

「さよなら原発! 福岡1万人集会」

日時・11月13日(日)
10:00～開場

※さよなら原発!お祭り広場開会。
ステージ、各種出店があります

場所・福岡市舞鶴公園
(福岡市中央区城内1)

【内容】
13:00 さよなら原発!大集会
14:00 パレード開始
15:00 天神・九電前・大宣伝行動

主催
九州・沖縄・韓国に住む市民でつくる
さよなら原発!福岡1万人集会
実行委員会

生活を問い直し、「脱原発」を

さようなら原発5万人集会

阻止ネットの集会後、参加者は明治公園に移動し、「さようなら原発5万人集会」に合流しました。会場となった明治公園は、さまざまなのぼりを掲げた市民団体・生産者・政治団体・労働組合・市民などで周辺道路にまで人があふれ、参加者は6万人に膨れ上がりました。

集会の呼びかけ人である鎌田慧さん、大江健三郎さん、落合恵子さん、山本太郎さんをはじめ、ゲストとしてドイツから国際的な環境団体FoEドイツ代表のフーベルト・ヴァイガーさん、被災地福島から、ハイロ（廃炉）アクション福島原発のメンバーも駆けつけて、アピールを行いました。中でも落合恵子さんによる「想像してください。『放射能こないで』と泣き叫ぶ子どもたちが今この日本にいることを。放射性廃棄物処理することができないのに、原子力（原発）を持つ罪深さを」という呼びかけは、会場

の多くの人の共感を呼びました。

最後は会場全体で「原発反対！子どもを守れ！」と声をあげ、その後、3つのコースに分かれて都内をパレードしました。延々と続くパレードでは、参加者は「原発いらない」などの横断幕やプラカードを手に、「子どもたちの生命を守ろう」「原発なんていらぬ」とシュプレヒコールをあげながら、力強くアピールしました。信号待ちの車の中からは小さい子どもだけでなく、お父さんが手を振る姿も見られました。これまで脱原発のパレードに何度も参加しているグリーンコープのメンバーが「今回ほど手応えを感じたことはない」と話すほど、市民の中にも関心の高さがうかがえ、今後の「脱原発」運動に力をもらえた行動となりました。

※3 Friends of the Earth. NGO
地球規模での環境問題に取り組む国際環境

講演

脱原発社会への道すじ

「福島第一原発事故から私たちは何を学ぶのか」

原子力資料情報室 澤井正子さん

原発は「工」?

電気を大量に生み出す方法は水力・火力・原子力の3つ。発電機につながるタービンを動かす動力が、水か蒸気かのどちらかで、その蒸気を作る燃料が石油・石炭・天然ガスか、ウランかの違い。いわば「ヤカンで湯をわかす」ようなことなのに、原子力発電は広島・長崎で人々が浴びた熱線と同じ放射性物質・死の灰を生み出してしまっている。CO₂の排出量という点では、石炭を使った火力発電は原子力の2・5倍強を排出する。しかし、原子力発電も再生可能エネルギーである風力発電の9・17倍のCO₂を排出している。

トだが、3月11日以降の東京ではほぼこの2倍の値になっている。

人間は、原発事故がなくとも自然界から常に等しく1ミリシーベルトの放射線を浴びている。体の全細胞が1年間に1回ずつ放射線を照射を受けるのに相当する値である。1ミリシーベルトなら人間の体は修復できると言われているが、量が増えるに従って、がん細胞ができてしまったり、遺伝子情報を間違えて伝えるということが起こる。「〇〇シーベルト以下なら安全」と言える科学的根拠は何もない。避けられる被曝は可能な限り避けるべき。

半減期を過ぎても影響は残る
今回の原発事故後すぐに問題になったのが、放射性ヨウ素。気体となって飛散しやすく半減期が短いので放射線をどんどん出すためだ。放射性物質でないヨウ素は、子どもたちの成長に欠かせない甲状腺ホルモンを作るために必要なもの。しかし、体は安全なヨウ素とそうでないヨウ素を区別できない。飛散したヨウ素を吸引したり、汚染された食品を摂れば、ヨウ素が甲状腺に集まってしまう。チエルノブイリ原発事故後、子どもたちが甲状腺がんを多発したことについては、放射性ヨウ素が原因と指摘されている。

内部被曝は直接DNAを傷つける

飲食、吸引などで放射性物質が一旦体内に入ってしまうと、そこで放射線を発し続ける。何もささざるものがないため、直接DNAを傷つけることになる。これが内部被曝だ。外部被曝も問題だが、食品への放射性汚染が広がり続けられ、内部被曝はより深刻な問題となる。

年、20年、100年というスパンで検証が必要である。

終息は誰にも分からない

1979年、アメリカのスリーマイル島の原発事故でも炉心熔融（メルトダウン）が起こった。かろうじて熔融物が圧力容器内にいることが分かったのが事故の10年後。未だに解体・撤去もできず、「安全貯蔵中」「監視中」の状態。今回の原発事故でも炉心熔融を起こしている。現時点では、溶けた核燃料がどこにあるのか、安定的な冷却状態になったとしてもこの事故がいつ終息するのかは、誰にも分からない。

再生可能なエネルギーへ

原発推進には、互いに利益を得てきた政治家・企業・研究者の集団、一部マスコミや司法などまで含む、「原子力村」と揶揄的に呼ばれるような組織的な問題がある。しかし、最も大きな問題は、圧倒的多数の市民と社会が無関心だったことである。

この夏、日本にある原発54基のうち、定期点検などで3分の2が停止しても電力は不足せず、昨年より15%削減を達成した。LED（発光ダイオード）などの活用でさらに省エネできる余地はある。再生可能エネルギーに向かうしかない。一方で、一人ひとりが今までのライフスタイルそのものを問い直すことが必要だ。



▲「5万人集会」後、横断幕を手に都内をパレードするグリーンコープ組合員



▲「さようなら原発1000万人アクション」の一環として開催された「5万人集会」の会場のようす



▲各単協で準備した横断幕を持ってアピールしました



▲参加者でいっぱいとなった会場の明治公園

組合員の力作、産直赤とんぼ米の

包材デザイン決定!



赤とんぼ米Cの新包材



グリーンコープ生協
ふくおか

大江明子さん

笑顔で稲穂を抱える生産者を
囲んで、大人、子ども、赤とんぼ、
犬、ねずみたちも笑っている。「農
家が元気になってみんなも笑っ
ているといいな。みんなで生産
者を支えていきたいという気持
ちからあたたかみのある色と生
産者を囲む輪を表現した構図に
しました。グリーンコープの産
直を全面に出したかった」と大
江さん。

8月、地域委員会主催の「赤と
んぼ米生産者と夏野菜料理交流
会」で、夏場の草取りがすごく大
変なことを知った。「生産者が苦
勞してこんなにおいしいお米を
作っていることを多くの人に知っ
てほしい。お米をもっと買わな
きゃ」と思った。デザインの仕事
をしていた経験を生かしてこの
気持ちを伝えようと応募した。

以前、印刷会社に勤務してい
る時にグリーンコープのカタロ
グに関わったことがあり、その
時グリーンコープの商品の良さ
を知り組合員になった。グリー
ンコープの商品を食べて育った
夫とは、生協の話でも盛り上がる。
当選プレゼントも「産地に行け
るんだったら、迷うことはない。
絶対こつちやろう」と、「産地で
の農業と収穫体験」と決めたの
は夫。当選を喜んでるのは夫
の方かも。「子どもたちを連れて
いったら喜ぶだろうと、楽し
みにしています」。

赤とんぼ米A・Bの新包材



グリーンコープ
やまぐち生協

藤本幸子さん

たわなに実った稲穂を抱えた
子どもと虫たちのうれしそう
なようすが特長のデザイン。「山や
川があつて田んぼにはいろんな
生き物が育っているから、私た
ちはおいしいお米を食べられる
という循環を表現したかった。
グリーンコープのお米にはそう
いう大きな意味があります」と、
兼業農家で育った藤本さんは語
る。子どもを描いたのは、田んぼ
にはいろんな生き物がいて生産
者が苦勞してお米を作っている
ことを今の子どもたちに伝え、
食べものへの感謝の気持ちを持
てほしいと思ったからだ。

6月、山口県にある「菊川町レ
インボー稲作研究会」の田植え
交流会に参加した。生産者と消
費者を結ぶ架け橋になりたいと、
会の名称にレインボーの言葉を
入れた会長のこと大好きなの
で、最後に虹を描き入れた。
絵を描くことが趣味。募集が
あると出品していた。今回は、応
募者全員へのプレゼント「野菜
料理レシピ集」が欲しくて応募
した。当選プレゼントは「産地
での農業と収穫体験を選んだ。『他
県の生産者はどんな思いで作っ
ているのかを現地に行つて聞い
てみたいですね。二男も連れて
行き、収穫を体験させたいと思っ
ています』」。

グリーンコープは2011年秋、組合員が組合員へグリーンコープのお米と野菜の
おいしさと、産直の素晴らしさを直接伝えていく取り組みをすすめています。
め産直赤とんぼ米は、「赤とんぼの飛び交う田んぼを守りたい」という思いで生産者
とグリーンコープが手を携えて、農業をできるだけ使わずに作り上げたお米です。
これからもめ産直赤とんぼ米をもっと食べてもらおうと、め産直赤とんぼ米の包材デ
ザインを組合員に募集し、214人から応募がありました。
各単協での選考を経て共同体育事会で選定された藤本さんと大江さんにお話を聞き
ました。



No.39

原子力発電のゴミ(死の灰)について

原子力発電は、ウランを燃やした熱で発生さ
せた蒸気でタービン(羽根車)を回して電力を
生み出す仕組みです。原子力を利用しようとす
ると、ウランを採掘する段階から膨大な放射性
のゴミが出ます。次に掘ったウランを原子炉で
燃えるように濃縮し加工する過程でもまた、放
射能のゴミが出ます。さらに原子炉を動かせば、
ウランを燃やす熱とともに必ず「死の灰」と呼
ばれる放射性物質のゴミが出ます。

原発は、事故が起きても起きなくても「死の
灰」などの放射性物質をどうするかという問題
に直面しています。人類初の原子炉が動き出し
てから60年以上の間、死の灰を無毒化する研究
がされてきましたが、未だに有効な処理方法
が見つけれないまま溜め続けられています。
未来を担う子どもたちにこれ以上の負の遺産を
背負わせないために、原発のない社会を手渡し
たいと思います。

参考文献: 隠される原子力核の真実 小出裕章 創史社

グリーンコープ共同体組織委員会

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑥

9月14日～10月7日までに検査した23品目について残留放射能は検出されませんでした。10月10日からグリー
ンコープ独自の放射能測定室がスタートし、日々放射能測定を行っています。測定結果についての厚生労働省の通知(2011.9.29)
を受けて、現在表示の仕方を見直す作業に入っています。この間の測定結果については次号で報告します。

商 品 名	製造日等	検査日 (抽出日)	放射能検査結果		商 品 名	製造日等	検査日 (抽出日)	放射能検査結果	
			セシウム134(Bq/kg)	セシウム137(Bq/kg)				セシウム134(Bq/kg)	セシウム137(Bq/kg)
さばファイル(ノルウェー産)	2011年9月 5日	9月14日	検出せず	検出せず	エリンギ	2011年9月 9日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
コシヒカリ(白米) 福岡県(北九州農協連済)	2011年9月 8日 収 穫	9月14日	検出せず	検出せず	新潟県南魚沼(雪国まいたけ)	2011年9月 9日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
コシヒカリ(玄米) 福岡県(北九州農協連済)	2011年9月 8日 収 穫	9月15日	検出せず	検出せず	原産生しいたけ 大分県(豊肥アグリ企画)	2011年9月17日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
夢つくし(白米) 福岡県(福岡市農協普通作研究部会)	2011年9月 9日 収 穫	9月15日	検出せず	検出せず	原産生しいたけ 福岡県(山下きこ園)	2011年9月17日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
夢つくし(玄米) 福岡県(福岡市農協普通作研究部会)	2011年9月 9日 収 穫	9月15日	検出せず	検出せず	原産生しいたけ 熊本県(九州自然の会)	2011年9月17日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
牛乳かりんとう	賞味期限 2011年11月18日	9月16日	検出せず	検出せず	原産生しいたけ 熊本県(下城椎茸)	2011年9月17日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
骨ごと食べられる サバの味噌煮	2011年6月10日	8月23日	検出せず	検出せず	干しいも(茨城県)	賞味期限 2011年11月 8日	9月22日	検出せず	検出せず
ザ・ラーメンズナック(チキン味)	2011年7月28日	8月24日	検出せず	検出せず	産直赤とんぼ米の ライスバーガー牛肉ごはん	2011年9月 1日	9月23日	検出せず	検出せず
産直赤とんぼ米の ライスバーガー牛肉ごはん	2011年8月 3日	8月25日	検出せず	検出せず	無農薬こしひかり(白米) 福岡県(糸島農協)	2011年9月 1日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
コシヒカリ白米 大分県(大分県農協院内)	2011年9月 1日 収 穫	9月16日	検出せず	検出せず	無農薬こしひかり(玄米) 福岡県(糸島農協)	2011年9月 1日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず
コシヒカリ玄米 大分県(大分県農協院内)	2011年9月 1日 収 穫	9月20日	検出せず	検出せず	塩さんま(気仙沼産)	2010年 水揚げ	9月30日	検出せず	検出せず
まいたけ 新潟県南魚沼(雪国まいたけ)	2011年9月 9日 収 穫	9月23日	検出せず	検出せず	草加せんべい(しょうゆ味)	賞味期限 2012年3月20日	10月 7日	検出せず	検出せず

検査対象
グリーンコープは商品や原料について放射能汚染が心配される地域を関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている(新聞で報道
されている)大気中の「環境放射能水準調査結果」を基礎に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商
品でも、牛乳など日常的に多く取り入れる商品及びしいたけ等放射性物質が蓄積しやすい商品は検査することになっています。
※水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されますので、その情報などをもとに漁獲海域によって、残留放射能検査をする対象を判断していきます。

検査対象
3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。
検査機関
「放射能汚染食品測定室」で行いました。表中の「検査日」は検査のためにグリーンコープから、測定室に検体を発送した日です。到着後、2日以内に検
査を行っています。

測定結果
検査商品の検出限界値は、精密には特定の検体を測定することに異なります。したがって、放射性セシウムの測定結果の表記について、0-1Bq/kg以下
の場合は「検出せず」、また、各検査商品において検出限界値以下の検査結果の場合にも「検出せず」となります。検出限界値を超えた測定値で5Bq/kg
未満の場合は、「検出(1~5Bq/kg)」と表記します。

今後の報告
・毎月、「共生の時代」で報告します。(ホームページには、週単位で掲載します)
・グリーンコープの基準値(放射性セシウム10Bq/kg)を超える残留放射能が検出された場合は直ちに報告します。

地域とつながり 心豊かに子育てしたい

いま地域を考える

No.218



左から逸見さん、安倉さん、平田さん、藤若さん親子。この日は皆でお兄ちゃんやお姉ちゃんの運動会の応援グッズ、旗作りをしました



3月の「母親サロン」では、ひな人形を作りました



岡山市吉備地域に、地域と大学のサポートを受けながら子育て支援に取り組むグループ「子育てはらっぱSMILE（以下、はらっぱSMILE）」があります。月に1回開いている「母親サロン」にお邪魔して、代表の平田みのりさん（グリーンコープ生協おかやま組合員）、他メンバーに話を聞きました。

2009年はじめ、2歳と6カ月の2人の子どもを持つ平田さんは、仕事で知りあった大学の教員から、中国学園大学が地域の子育て支援に取り組むことを計画しているの、空き教室で子育てサロンを運営してみないかと持ち掛けられた。大学構内にある「子育て支援室」を使い、教員や学生、そしてゆくゆくは、地域の人がボランティアでサポーターとしてかわるという話は、子育て真っ最中の平田さんにとってまさに夢のような話だった。

「まずはやってみよう」と身近な子育て中の友人に声をかけ、2組の親子で活動をはじめた。グループ名は「親子が集って笑顔になれる場所」という思いを込めて「子育てはらっぱSMILE」に。まずは、親子が集える場を作るために準備に奔走した。会場となる子育て支援室は、フローリングの床に一部分だけ畳のスペースがあり、10組の親子が入っても十分余裕のある広さだ。おもちゃや絵本は助成金を利用して購入した。また、社会福祉協議会を通して、サポーターとしてボランティアで参加してくれる地域の先輩ママが見つかった。大学や社会福祉協議会の協力も得て、2009年9月、子育てサロンの運営をはじめた。

親子で育ちあうグループを
活動をスタートするにあたって声をかけてくれた教員から、継続させるポイントとは「無理をしないこと、活動の目的を明確にすること」というアドバイスを受けた。まずは2人で子育ての考えや思い、活動目的を

共に育ちあうサロン活動
はらっぱSMILEのメンバーが、友人や子育て

確認しあった。「母親たちの息抜きの場だけでなく、育児につながる勉強もしたいね」、「親も、子も共に育ちあえるグループにしたい」と、活動のイメージが広がっていった。

グループ名は「親子が集って笑顔になれる場所」という思いを込めて「子育てはらっぱSMILE」に。

中の母親に子育てサロンへの参加を呼びかけ、これまでに20組を超える親子が参加した。大学の教員、学生や地域のサポーターも活動を支えてくれた。活動を始めた直後、メンバーになった安倉さんは、現在インターネットを使ってはらっぱSMILEの活動を発信している。

はらっぱSMILEの主な活動の場である「母親サロン」は月1回、午前10時〜13時まで開いている。生後2〜3カ月の赤ちゃんから就園前までの親子が毎回7組程集う。活動内容は母親たちが企画し、季節の行事にちなんだ遊びや制作、絵本の読み聞かせや手遊びなどを、学生のサポーターの協力を得ながら子どもたちと楽しんだ。「学生さんが入ると子どもたちが大喜びでした。先輩ママに下の子をみてもらえるなど、サポーターの存在があったかったです」と安倉さんは話す。

「お父さんたちにも、主

体的に子どもたちとかかわって子育てを楽しんでほしい」、「私たちも、たまには子どもと離れてリフレッシュしたい」という母親たちの思いから、「父親サロン」を企画し、2009年11月から活動を開始した。2カ月に1回、休日に父親と子どもが集い、学生のサポーターの協力で主に身体を使う遊びなどを取り入れた。はらっぱSMILEのメンバーである藤若さんは、「夫がはじめて父親サロンに参加した日は、私は一人で映画を観に行きました。久しぶりに気分転換できて楽しかったです」と笑顔で話す。

その他、助成事業を受け、大学の協力により、母親たちが発達障がいや発達心理学について学ぶ「子育て講座」、地域の人も対象にした「子育てサポーター養成講座」の開催が実現した。受講中は学生のサポーターが子どもたちをみていた。「子育てでサポーターが増えると、もっと多くの親子が、専門の先生や子育てサポ



3月に行った「父母合同サロン」は、初めて大学から地域へ場所を移して、もちつきをしました

2011年9月の組合員数 394908人

(9/20現在)

リユースリサイクルデータ 2011年8月分	牛乳びん 回収本数 718,668本 回収率 100.1% (7月17日〜8月13日回収分)	フードマイレージ 2011年9月までに組合員の利用によってたまったのは 129,551,702.3 poco CO ₂ に換算して12,955トン削減したことになります
リユースびん 回収本数 218,056本 回収率 77.1%	トレー 回収重量 9,667kg 回収率 53.7%	アジア民衆基金 2011年9月までに組合員の利用によってたまったのは 21,915,881円
モールドバック 回収重量 32,760kg 回収率 94.0%	仕分け袋 回収重量 1,356kg 回収率 6.8%	放射能汚染測定結果は、7面の残留放射能検査結果に掲載しています。

かたがたが変わっても活動を続けていきたい
2011年3月まで大学の側の協力を得て多彩な活動に取り組んできたが、その後は、大学の事情もあって、教員や学生のサポーターはかわらないサロンとなった。以来、はらっぱSMILEのメンバーだけで、大学の子育て支援室を借りて子育てサロンの活動を続けている。「子育て中の親子と、地域の人たちが集いあい、居心地のいい場所でありたいと活動してきました。私たちにとっても、支援でかわってくれた人たちに

とつても、実りある豊かな関係を築いていくことができたと思っています。場所を貸していただけるだけでもありがたいですね。これから活動を続けていく中で、地域の方々にまたサポーターとしてかわっていただけるといいなと思っています。地域とつながって、一緒に子育てを楽しみながら、ともに暮らしが豊かになる。そんなサロンが地域に広がり、地域と協力して子育てできると幸せです」と平田さんは語った。

今年9月に行った「父母合同サロン」では、玉柏の川で手作りいかだを漕いだり、バーベキューをして過ごした。「子どもたちより、お父さんたちのほうが真剣に遊んでいたよ」と安倉さんはほほえむ。

「お父さんたちにも、主

体的に子どもたちとかかわって子育てを楽しんでほしい」、「私たちも、たまには子どもと離れてリフレッシュしたい」という母親たちの思いから、「父親サロン」を企画し、2009年11月から活動を開始した。2カ月に1回、休日に父親と子どもが集い、学生のサポーターの協力で主に身体を使う遊びなどを取り入れた。はらっぱSMILEのメンバーである藤若さんは、「夫がはじめて父親サロンに参加した日は、私は一人で映画を観に行きました。久しぶりに気分転換できて楽しかったです」と笑顔で話す。

その他、助成事業を受け、大学の協力により、母親たちが発達障がいや発達心理学について学ぶ「子育て講座」、地域の人も対象にした「子育てサポーター養成講座」の開催が実現した。受講中は学生のサポーターが子どもたちをみていた。「子育てでサポーターが増えると、もっと多くの親子が、専門の先生や子育てサポ

今後は親子を中心に、親同士がそれぞれ得意なことを生かしながらかつ活動を描いて、楽しんでいる。